

4 (3) 特別支援教育の研究

のぞみ学級 (知的学級)

目指す子ども像

- (1) 共に学ぶことにより、自己理解・他者理解を高め、様々な思いを考えることができる子ども
- (2) 友達や地域社会の人達と関係性をつくり、共に生きることができる子ども

研究仮説

仮説1〈支援の工夫・意欲・生活力の向上〉
 児童一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた支援を工夫することで、意欲的に学習に取り組み、生活に必要な力が高まるであろう。

仮説2〈自己理解・他者理解・関係性・つながり〉
 様々な人との交流の機会を広げることで、自己理解につながり、他者との違いを認識しながら、関係性をつくることができるであろう。

研究内容

〈のぞみ学級の研究から〉

「自己理解」「他者理解」「多様性」「関係性」「つながり」をキーワードに、子どもたち一人一人が「今」を充実させ、生き生きと学校生活を送ることを目指す。さらに、「社会自立」「社会参加」につながる豊かな学習活動を展開し、一人一人の生活する力を高めることを目指す (→共生社会の構築へ)。

〈生活単元学習の取組から～研究主題にアプローチする手段として～〉

生活する中で処理しなければならない課題を解決する力を育てたり、生活に必要な力を身に付けたりする学習である。全校研究主題を受けて道徳的視点を考慮しながら研究を進めていくものとする。単元ごとに「振り返り」「気づき」を通して道徳的実践へつなげていくものである。

- 意欲的に活動できる授業、生活力を高める授業の構築
- 自分の思いの表出、他者理解につながる工夫と展開
- 交流学习の充実
- 地域交流の充実 (関係性、つながり)

こもれび学級 (情緒学級)

目指す子ども像

- (1) 自分のことを知り、自分の価値を認め、自分のことを大切にできる子ども
- (2) 他者を認め、相手の気持ちになって感じたり考えたりできる子ども
- (3) 自分の周りの人たちと、誠実にかかわり、お互いに成長し合おうとする子ども

研究仮説

個別学習や小集団活動において、自己肯定感を育みながら、自己認知力・他者理解力・コミュニケーション力を高めることで、自他の思いを大切に、信頼・協力し合える子どもが育つであろう。

研究内容

本校の研究主題をうけて、こもれび学級では自己肯定感を育みながら、自己認知力・他者理解力・コミュニケーション力を高め、子どもたちが互いに成長し合える基盤作りを目指す。

〈本学級の自立活動〉

個々の様々な課題や困難を改善するために必要な知識・技能・態度を養い、調和的発達の基礎を培うため、個別の目標を設定して自立活動の指導を行っている。指導形態は、主に低・高学年別の小集団で活動し、必要に応じて個別に指導を行っている。

今年度も道徳的視点を考慮しながら、低学年では集団における適切な言動やルールを理解、話の聞き方や伝え方などについて、高学年ではコミュニケーション力を高めるため、相互理解のための言葉・表現やセルフコントロールする方法などについてそれぞれ研究を進めていく。

- 児童一人一人の的確な実態把握に基づいた個別指導計画の作成
- 児童の実態に即した具体的な支援の工夫
- 実際の生活に生かしていくことができる学習内容の蓄積と精選

ことばの教室 (言語通級指導教室)

目指す子ども像

- (1) のびのびと自己表現できる子ども
- (2) 活発なコミュニケーション活動を通して積極的に生活していこうとする子ども

研究仮説

仮説1
 多方面から情報を収集し、それらを整理するとともに、複数の視点を取り入れて子どもへの理解を深めていくことで、児童のことばの力が伸び豊かな自己表現ができる子どもが育つであろう。

仮説2
 様々な指導方法を組み合わせてアプローチを行うことで、児童一人一人のもっていることばの力を最大限に発揮し、集団の中で人と関わりやコミュニケーションを深めていくことで、互いを尊重し合う関係をつくっていくことができるであろう。

研究内容

一人一人の実態にそった支援のために(道徳的視点を大切にしながら)

